

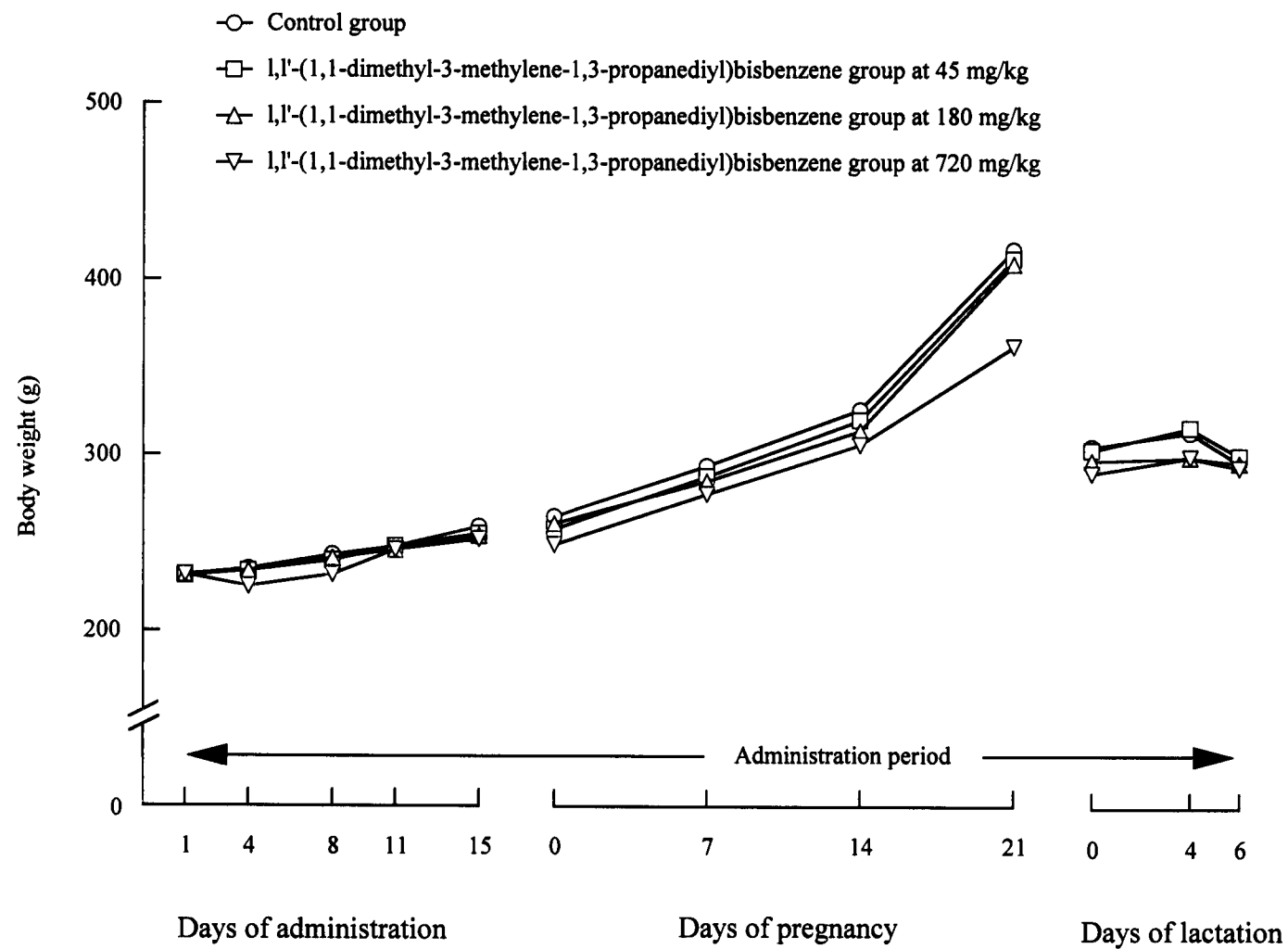


Fig. 3 Body weights of female rats in combined repeat dose and reproductive/developmental toxicity screening test of 1,1'-(1,1-dimethyl-3-methylene-1,3-propanediyl)bisbenzene by oral administration

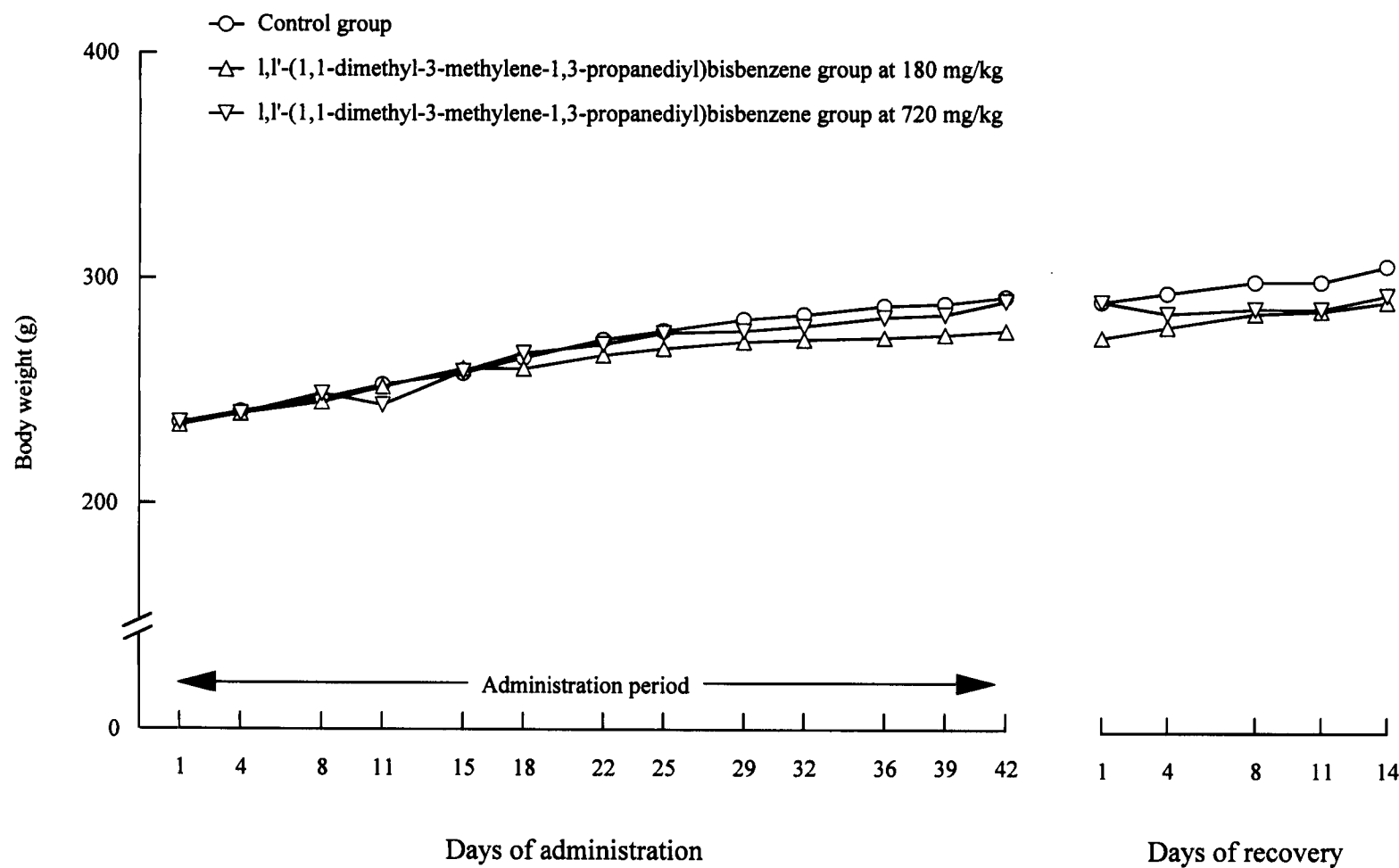


Fig. 4 Body weights of female rats (recovery group) in combined repeat dose and reproductive/developmental toxicity screening test of 1,1'-(1,1-dimethyl-3-methylene-1,3-propanediyl)bisbenzene by oral administration

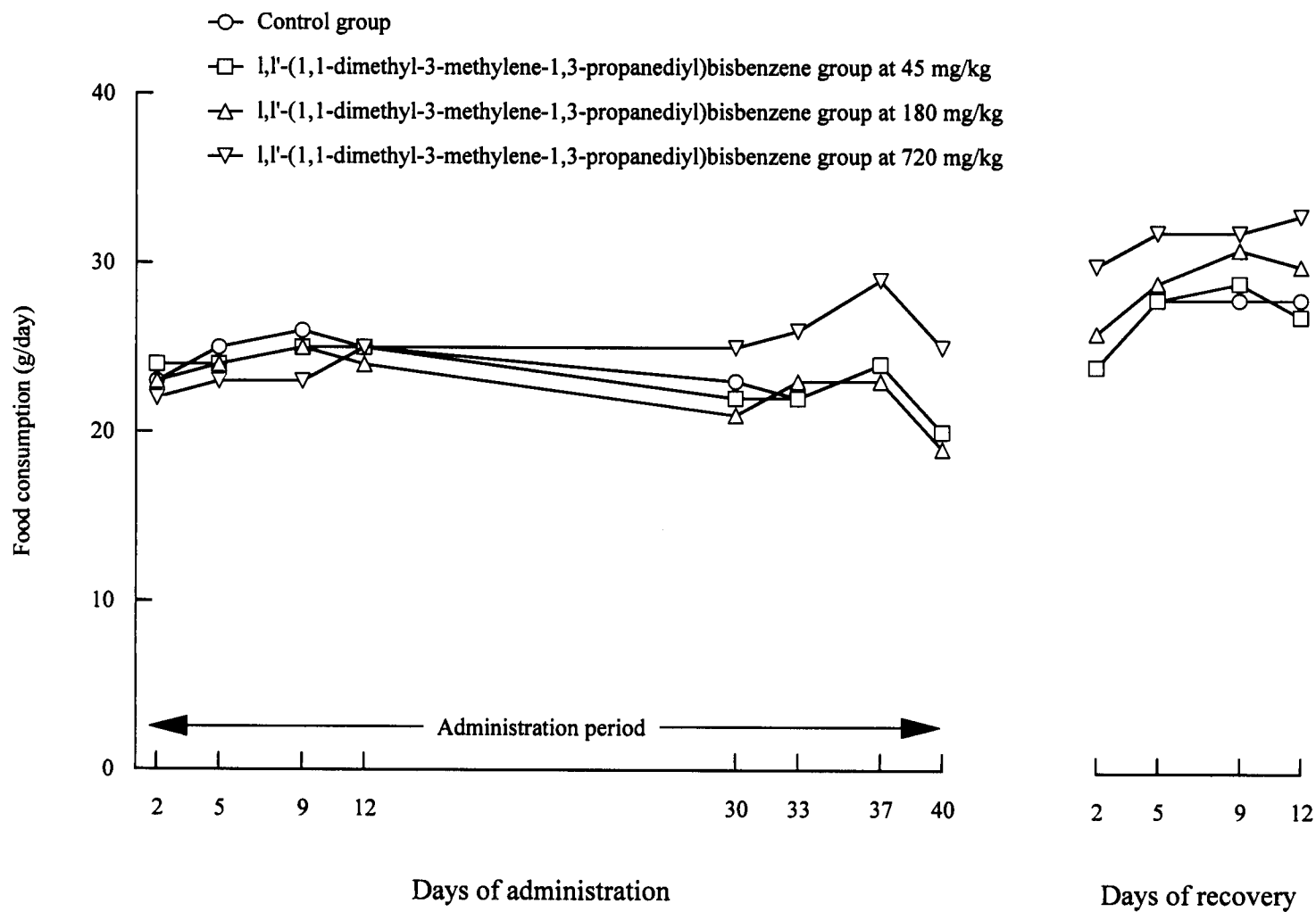


Fig. 5 Food consumption of male rats in combined repeat dose and reproductive/developmental toxicity screening test of 1,1'-(1,1-dimethyl-3-methylene-1,3-propanediyl)bisbenzene by oral administration

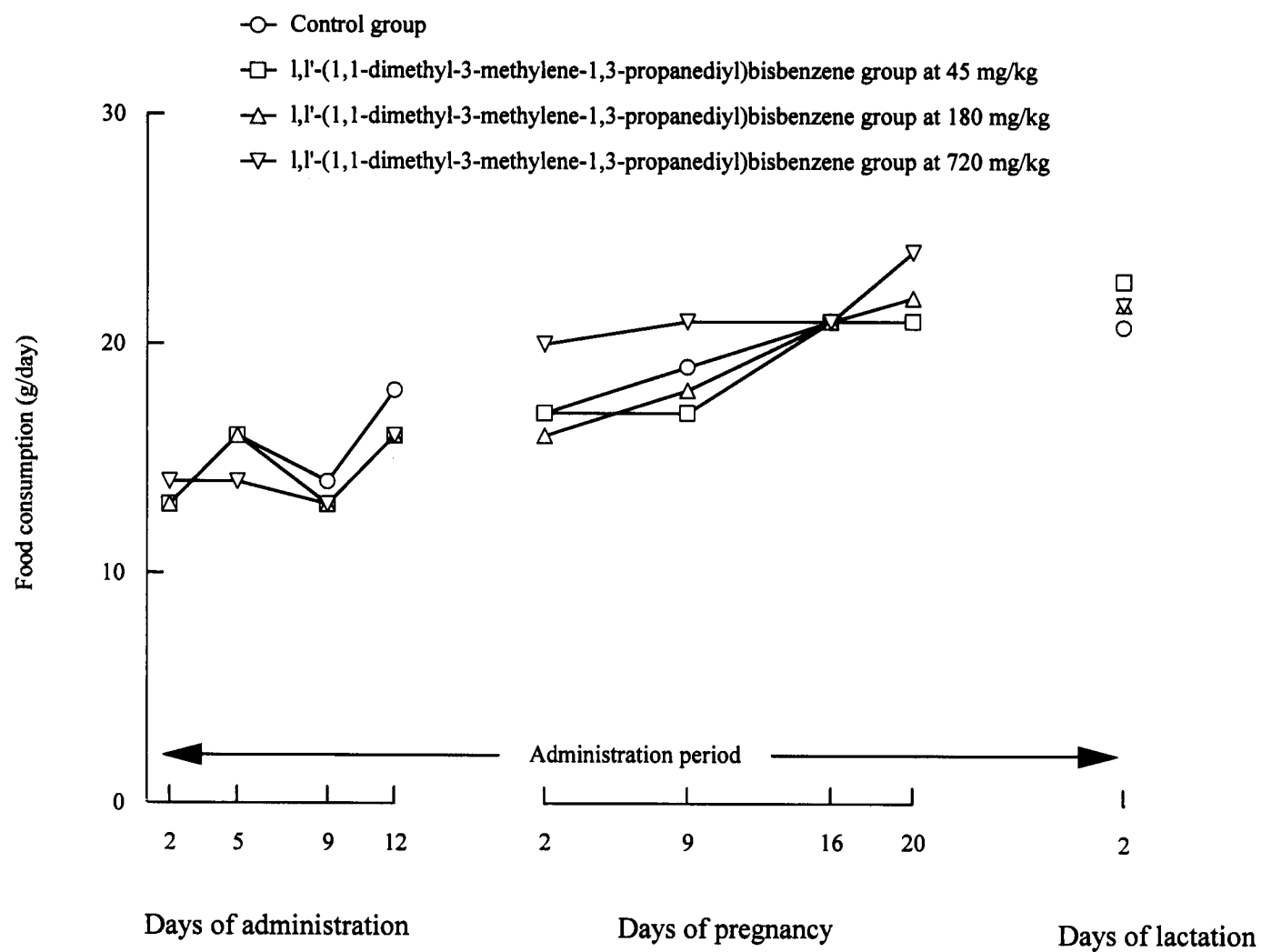


Fig. 6 Food consumption of female rats in combined repeat dose and reproductive/developmental toxicity screening test of 1,1'-(1,1-dimethyl-3-methylene-1,3-propanediyl)bisbenzene by oral administration

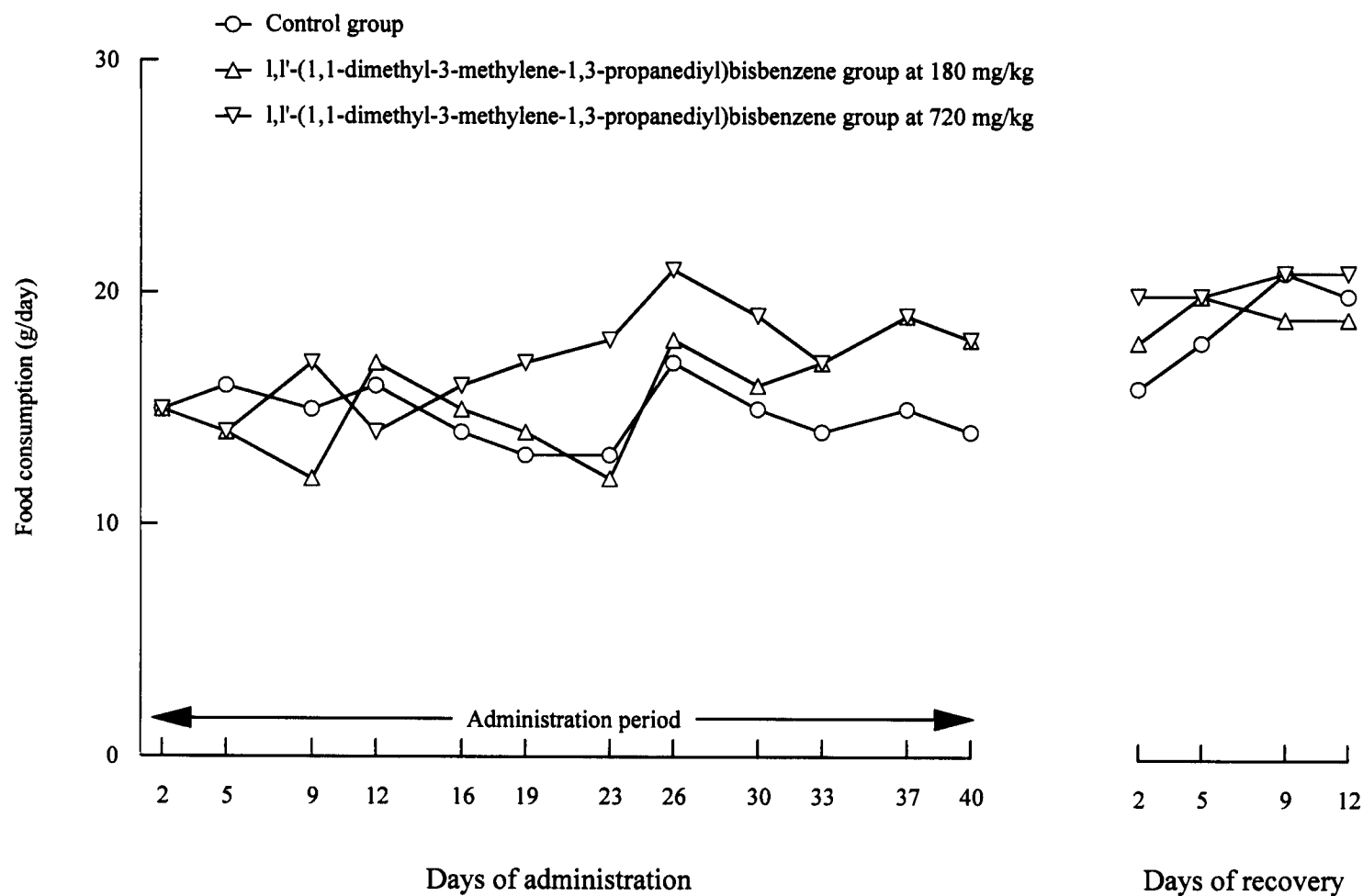
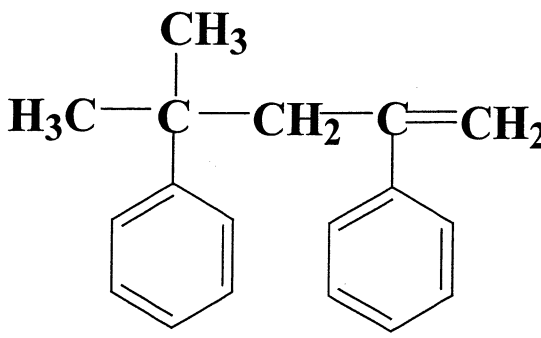


Fig. 7 Food consumption of female rats (recovery group) in combined repeat dose and reproductive/developmental toxicity screening test of 1,1'-(1,1-dimethyl-3-methylene-1,3-propanediyl)bisbenzene by oral administration

細菌を用いる復帰突然変異試験結果報告書

1. 一般的事項

新規化学物質の名称 (IUPAC命名法による)	2,4-ジフェニル-4-メチル-1-ペンテン		
別 名	1,1-(1,1dimethyl-3-methylene-1,3-propanediyl) bisbenzene		
C A S 番 号	6362-80-7		
構造式又は示性式 (いずれも不明の場合は、その製法の概要)			
分 子 量	236.36		
試験に供した新規 化学物質の純度	96.97%		
試験に供した新規 化学物質のLot No.	412220		
不 純 物 の 名 称 及 び 含 有 率	2,4-Diphenyl-4-methyl-2-pentene 2.54% 1,1,3-Trimethyl-3-phenylindan 0.24% α-MS 0.07%		
蒸 気 圧	11 Pa (170℃)		
対 水 溶 解 度	10 ppm		
1-オクタノール/水分配係数	—		
融 点	-82℃		
沸 点	310℃		
常 温 に お け る 性 状	無色透明の液体でスチレン臭		
安 定 性	常温・常圧で安定		
溶媒に対する溶解度等	溶媒	溶解度	溶媒中の安定性
	DMSO	482.4 mg/mL以上*	**
その他 * : 試験施設にて溶解度を確認 ** : 482.4 mg/mL DMSO溶液に発熱、発泡は認められず。			

[備考] 物理化学的性状は、可能な限り記入すること。

1. 「蒸気圧」の欄には、被験物質の蒸気圧を記入すること。
2. 「安定性」の欄には、温度、光等に対する安定性を記入すること。
3. 「溶媒に対する溶解度等」の欄には、被験物質の溶媒に対する溶解度及びその溶媒中での安定性を記入すること。

2. 試験に用いた菌株

菌 株 名	入 手 先	入 手 年 月 日
<i>Salmonella typhimurium</i> TA 98	中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター	1996年 10月 18日
<i>Salmonella typhimurium</i> TA 100	中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター	1996年 10月 18日
<i>Salmonella typhimurium</i> TA 1535	中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター	1995年 2月 25日
<i>Salmonella typhimurium</i> TA 1537	中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター	1995年 2月 25日
<i>Escherichia coli</i> WP2uvrA	中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター	1995年 2月 25日

3. S9 mix

(1) S9の入手法等 (該当する番号を○で囲み, 必要事項を記入すること.)

自製・購入の別	1.自製 (2)購入 (製造元: オリエンタル酵母工業株式会社)
製造年月日	2004年 10月 1日製造
購入の場合のLot No.	04100107
保存温度	-80 °C

(2) S9の調製方法

使用動物		誘導物質		
種・系統	ラット, Crj:CD (SD)	名 称	Phenobarbital (PB)	
			5,6-Benzoflavone (BF)	
性	雄	投与方法	i.p.	
週 令	7 週	投与期間及び投与量	1日目	PB 0.03 g/kg
体 重	210.5 ± 8.8 g	(g / kg 体重)	2,3,4日目	PB 0.06 g/kg
			3日目	BF 0.08 g/kg

(3) S9 mixの組成

成 分	S9 mix 1mL中の量	成 分	S9 mix 1mL中の量
S9	0.1 mL	NADPH	4 μ mol
MgCl ₂	8 μ mol	NADH	4 μ mol
KCl	33 μ mol	Na-リン酸緩衝液	100 μ mol
グルコース-6-リン酸	5 μ mol	その他 (注射用水)	0.9 mL

4. 被験物質溶液の調製（被験物質溶液の性状及び純度換算の有無は該当するものを○で囲むこと。）

使用溶媒	名称	製造元	Lot No.	グレード	純度 (%)
	ジメチルスルホキシド	株式会社同仁化学研究所	PU140	紫外外部吸収スペクトル用	100.0
溶媒選択の理由	ジメチルスルホキシド(DMSO)は、細菌を用いる復帰突然変異試験で一般的に用いられており、被験物質が容易に溶解するため。				
被験物質溶液の性状	☒ 溶解 ☐ 懸濁 ☐ その他 ()				
被験物質が難溶性の場合における懸濁等の方法	—				
溶液の調製から使用までの保存時間と温度	— 時間 — 分 — °C 用量設定試験, 本試験 (I), 本試験 (II) とも用時調製				
純度換算の有無	☒ 有 (換算計数:) ☐ 無				

5. 前培養の条件等

(1) 条件

ニュートリエントブロス	名称	製造元	Lot No.
	OXOID NUTRIENT BROTH No.2	OXOID Ltd.	298714
前 培 養 時 間	9 時間		
培養容器 (形状・容量)	形状: L 字管 容量: 約 40 mL		
培 養 液 量	10 mL	接 種 菌 量	20 μ L

(2) 前培養終了時の生菌数等

菌 株 名		塩基対置換型			フレームシフト型	
		TA100	TA1535	WP2 $uvrA$	TA98	TA1537
生菌数 ($\times 10^9$ /mL)	用量設定試験	3.1	4.1	5.2	3.5	2.6
	本 試 験 (I)	3.1	4.2	5.2	3.6	2.6
	本 試 験 (II)	3.1	4.2	5.2	3.6	2.6
測 定 方 法 (いずれかを○で囲むこと。)		☒ 1. O. D. 値よりの換算 2. 段階希釈 ☐ 3. その他 ()				

6. 最少グルコース寒天平板培地（該当する番号を○で囲み、必要事項を記入すること.）

自 製 ・ 購 入 の 別	1. 自 製 (2.) 購 入 (製造元：オリエンタル酵母工業株式会社)
製 造 年 月 日	2004年 11月 16日製造
購 入 の 場 合 の L o t N o .	ANI990KT
使用寒天の名称・製造元・Lot No.	伊那寒天 BA-30A 伊那食品工業（株） Lot No.40127

7. 試験の方法（該当する番号を○で囲み、必要事項を記入すること.）

(1) 試験方法とその選定理由

採用した試験方法	(1) プレインキュベーション法 2. プレート法 3. その他 ()
その他の場合は その選定理由	_____

(2) 試験条件

組 成	菌 懸 濁 液	0.1 mL
	被験物質溶液	0.1 mL
	Na-リン酸緩衝液（直接法による場合）	0.5 mL
	S9 mix（代謝活性化法による場合）	0.5 mL
	ト ッ プ ア ガー	2 mL
	そ の 他 ()	_____
プレインキュベーション	温 度	37 °C
	時 間	20 分
インキュベーション	温 度	37 °C
	時 間	約48 時間

8. コロニー計測の方法

計測方法	1. マニュアル計測 (2.) 機器計測
補正の有無	1. 無 (2.) 有 (補正の方法 面積補正+数え落とし補正)